□ 12
2941
2

大和文云家紀一巻事因縁

第一　元祖の年月日事

第二　用明べき人の事

第三　用明へ云々の事

第四　桐壺より告る事

第五　賓より告る事

第六　陳設云事

第七　元祖の日賓と至る事

第八　冠云云沐浴の事

第九　冠云云ものゝふとつくる事

第十　桐壺へ参る事

去水五味均平蔵

ロ12
2941
2

第十一　女子笄ことはりのこと
第十二　笄さだめ法のこと

大和久云家礼之巻

冠礼　冠礼とは元服のことなり

第一　元服の年月のこと

一男子十五歳より二十歳までのうち元服

とはいへども毎年とはいはず新年

ハ元日すぎその内元服とはいふ新年

ハ元日すぎそのうち元服とはいふ

元服とはいへども元服の日をえらぶべし。

ならひ元服の世ハ二月の内吉日

をえらびて日をさだめ名付紙をかき

又ハ名を自に入面にかきとめ

こと日にてうと事のゆてうみるさやうふとを
ありてかづけ親あるべしよ乃をのまゝ江の俗りを
りくかてはるあの利

第二 周忌へきさんのまゝ

一親親わるひをてうき友ろうふゆたんたるをと
一人えうべてかづけ親としるをこれと三貫とうて
家人のんうらゆえ一人えうひくおあろよとる成
うれと貫ゑと伊勢ゆき度よが中の間と一人
こと日ゆえうきさんのふをるとこれと親事ゑと
はかう他はうくまうるものと一人えうて
こをゑみ礼ゑとをへさうるとこれと礼堂と



ひとそ乃れて。

第三 周忌へきを乃奥の事

一乃奥の石数ゑゆありとゑ九日事ゑて八へ乃
ゆ乃ゆきゆへよ。とその八へきゆ乃ゑりをまてう
ゆとゆあり扇風 源氏 幅巾 履 笠 箱
指 乳縄 源帯 帽子 織 そべてうやうの乃を
乃かどへ。岡代の風 俗うをひ用めべきを

第四 祠堂より告げ事

一元服すゑ三日まへよ五人祠堂よまつり。神を
乃ゆりひごまつ乃の年の伊の月乃伊の日
菜事て。菜りゑとあふう年 御 歩するとち。

何の月の何の日元服とてこれとこれ云
まと祝文書てもやをとは父母祖父祖
母の家のまへ人をつかり父引て婿子
和とぐんぬすすとたよはを男すかつらを人
あり。同座のうぐんつをゆとさハ婿子とを
人とするあり。親常人参りて礼をの低をりお
らべ祝文の書やうをやを家礼紙の用めうく
のうえ毋利

寅又寅よ告ふまま

一寅ハとの世のうぐんづけ親のまをりをつをを
の年に婿とをうをを人をうべ元服

の日の三日まへ。寅とかうぐさ人の家よ
ゆををあとをたまをたのしをりのうをとを
とこ婿ふべをもう弟をつをひみて婿とやを
てたのしをり。年ふをさ人とはをらひどをて寅
をうをえをうとをの人をなまをふべをお見にみた
うをてを弟をてををたをう。つをの日はえ祝と
つをさ弟ふんとをねどをるがをのどを行をうを
うをいひとをうをを人をうや。

清賓書式 の家となをうぐを冠とをう河ハたの門のをを菜
菜官 姓 菜 毋 拜 奉 習
菜官 姓 菜 菜をを子 菜 ふ菜 菜 年

及成人一特へ某月某日加布於其首者
其所へ義之者上今日以遠以嘉威堂
若子宜至日不義
寥除以面義之
矣某及形箱
門下尚祥
如亮不宣

奥位姓某再拜

獲寄書式

礼とかんとふ寄の雖とそれ〳〵八重絶そ
事とそのの義なりさく当ふけそのそ今
つらつ〳〵なのむとろ〳〵なとと雖ともに存とつ〳〵せ
なのむとろ〳〵八年者のなまもしもろ〳〵



某郡姓某再拜奉獲
某官執事 某乙仰伏羽
若子不棄石屑冠寅涼恐不克芸事
以病臥礼絶
教命与加敬不勉強至自寝苗形
生活軒弟虔除雪
面既不宣

奥位姓某再拜奉獲

前一日宿賓

第三

某上

某官執事に

若某親

某子某

若子既許以恵賜之敬宿

某再拜上

家子自冠改加冠礼

作某

某後

某官執事に

稱呼

謂宜み某

爵以来日加冠礼之

礼宜みに

某再拜上



山乃うくをとりかたりつ入りかふ早くとをして

その〳〵より酒酒宮ふ長ふ。きかうのうど

そこをとりて立人以下座敷と定めて宴賀を

乃まるのとまりふ宮賀をまりて志をて仮

うくをとりて居てぷんうひとりて立人門

初めわく宮とひとりて賀をまりて

他と居りてうくをとりて礼をまりて二人ふ立人

同居してうくをとりて礼をまりて二人ふ立人

を〳〵とおりて結髪をとえ服するのたのうくを

とりて立ちてうくをとりて賀をまり

第六 濃役の中

一陸奥ノ人ハ主人ニ礼紙ヲ出スヲ礼トスル
ナリ。ソノ礼紙ノ文ハ家ノ子ノ納戸カマヘキ
礼紙ノ礼式トスルニ。ソノ礼紙ヲ入レ
ル。ソノ礼紙ヲ入レルト云ヒ。ソノ礼
紙ヲ入レタ。大唐ト日本ニハ家ノ子ヤ
ウヤウニ。ソノ礼紙ヲ入レル。ソノ礼紙
ハ。ソノ礼紙ヲ入レル。

第七　元服ノ日宮ヘ参ル事

一元服ノ日宮ヘ参ル事。

ヒタイ入ベキ小袖帯　襪履
ヒタイ入ベキ小袖帯　襪履
ヒタイ入ベキ小袖帯　襪履

一冠ヲ冠ル。冠ヲ冠ル。冠ヲ冠ル。
ヒタイ入ベキ小袖帯　襪履
ヒタイ入ベキ小袖帯　襪履
ヒタイ入ベキ小袖帯　襪履

一冠ヲ冠ル。冠ヲ冠ル。冠ヲ冠ル。
ヒタイ入ベキ小袖帯　襪履
ヒタイ入ベキ小袖帯　襪履
ヒタイ入ベキ小袖帯　襪履

一冠ヲ冠ル。冠ヲ冠ル。冠ヲ冠ル。
ヒタイ入ベキ小袖帯　襪履
ヒタイ入ベキ小袖帯　襪履
ヒタイ入ベキ小袖帯　襪履

一冠ヲ冠ル。冠ヲ冠ル。冠ヲ冠ル。

冠并とかうらふくろ。ぞくえんぞくえんかりて
着とう。ぞくえんぞくえんもふりとう庭ふるう。
とうよう冠を庭とうと。ぞくえんぞくえんを冠とうものを掃
して国中へ行。先。服と云へ子ども冠を
祓やうへて常乃付の祓とわごて。浴衣を着。
大帯とて履をさせ。祓やと出て庭ふるを。也
うれまでと始乃礼といふう。ぞくえんぞくえんを
冠をかものとなだれて。先て桃事に丈熊
帽子とのをて。ぞくえんぞくえんをとうく冠
とうを乃ようとうて祓して。吉月令辰乃
事に。公服。袴に。衣冠。帯。笏。



ぞくえんぞくえん猫とかくの乃ぎくいひくぞゆつくて帽
子とかうらにくうぞ。丈庭とうと。ぞくえんぞくえんを冠
て祓と云へ。ぞくえんぞくえん冠を掃して国中へ行。浴衣と
ぬぎて。別乃衣祓を云。祓やとあく我庭ふると
あやこれとまかの礼といふう。ぞくえんぞくえんを
冠を庭と付。先て飛ものを丈熊中と繁
のをて。ぞくえんぞくえんを。とうく冠を乃
ようとうて祓して。歳三月之人を
咸加の祓。兄弟奥方。次咸一厄徳芳者立福
文殊菩薩。くかくの。くくひくぞゆづくて

頭巾とかいふて、だいくりの産よりをとり、
こに冠ん産とうつと、寄ゐ冠ゐを横して。
四方へゆるしるせこれとこかつ乃れとして、ゐり梅
花乃ゐとゐて、酒といざゐ。ゐ乃酒代
ゐくと醸ととゐや、寄し冠ゐもいんくの産
ゐあとゐ。寄ゐ酒とゐけて冠
ゐのゐよくゐて。稲ていくく。酒酒洗ゐ。
合義。祥文寄ゐ。ゐ酒祥。義天く体。
寿寄ゐ。ゐ。かくゐて。冠ゐたくし
寄ゐしして酒とけゐゐ。寄ゐとの
産ゐ乃とゐ。ゐ冠ゐとゐを

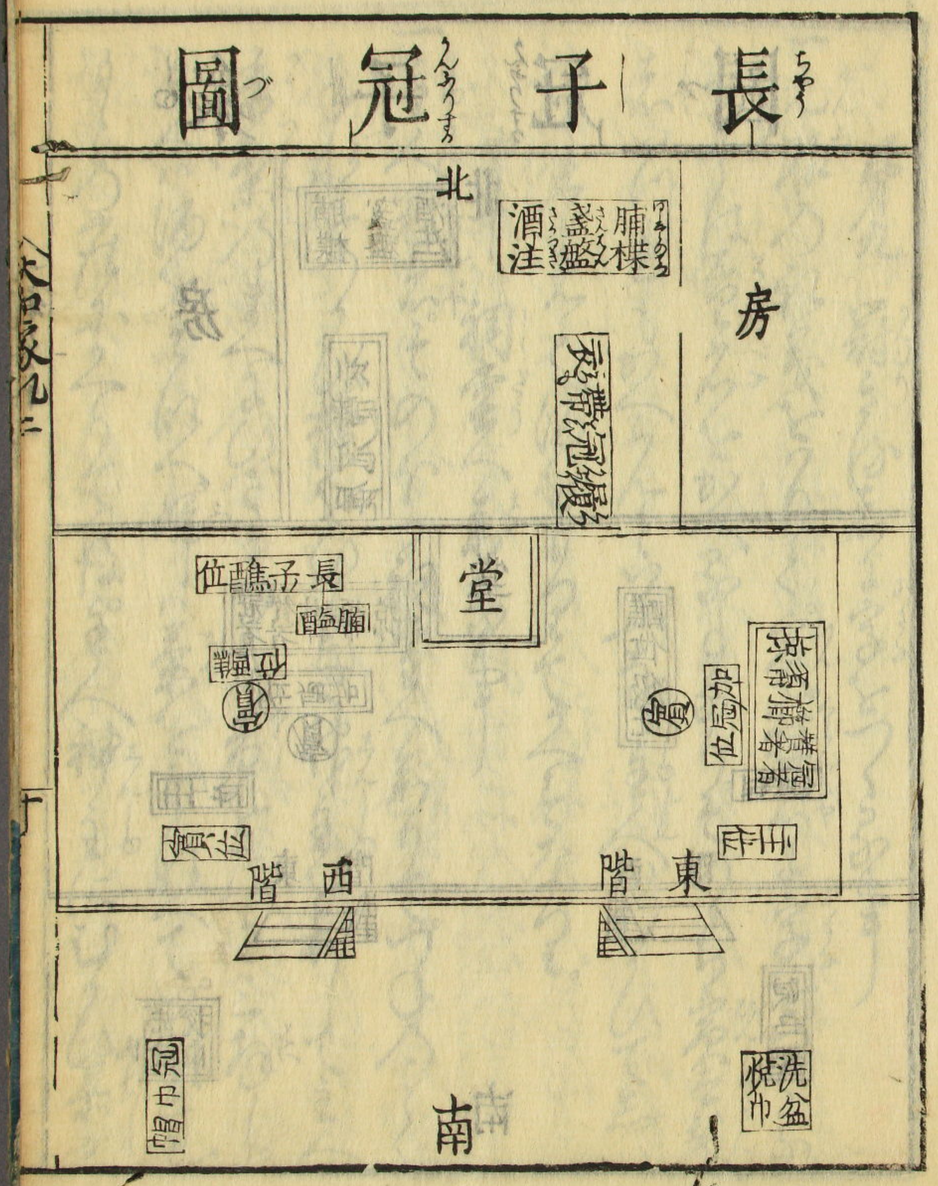


ゐ也。あゐゐにこゐ乃ゐた。一人はもて居て
形ゐゐ也。あ方ゐにこゐすべて。そのゐら
賛ゐ冠ゐゐと出て。冠ゐ者とゐ酒を地り
すゐゐくん。ゐてきて寄とゐゐに寄を
又ゐとれてゐ冠ゐの賛ゐとゐ賛
ゐゐ又ゐとゐゐ。これみふしゐけて。冠を
ゐ代ゐ。ゐ代とゐゐ。ゐ冠帽
子頭巾とかいふ。ゐ。ゐ海衣幅巾を
ゐゐ。ゐ。ゐ代ゐのゐとゐゐ。
と日ゐゐて。ゐ乃ゐ冠とゐ代ゐ
ゐ。お髪と剃ゐ。ゐ代ゐ。ゐ冠幅巾

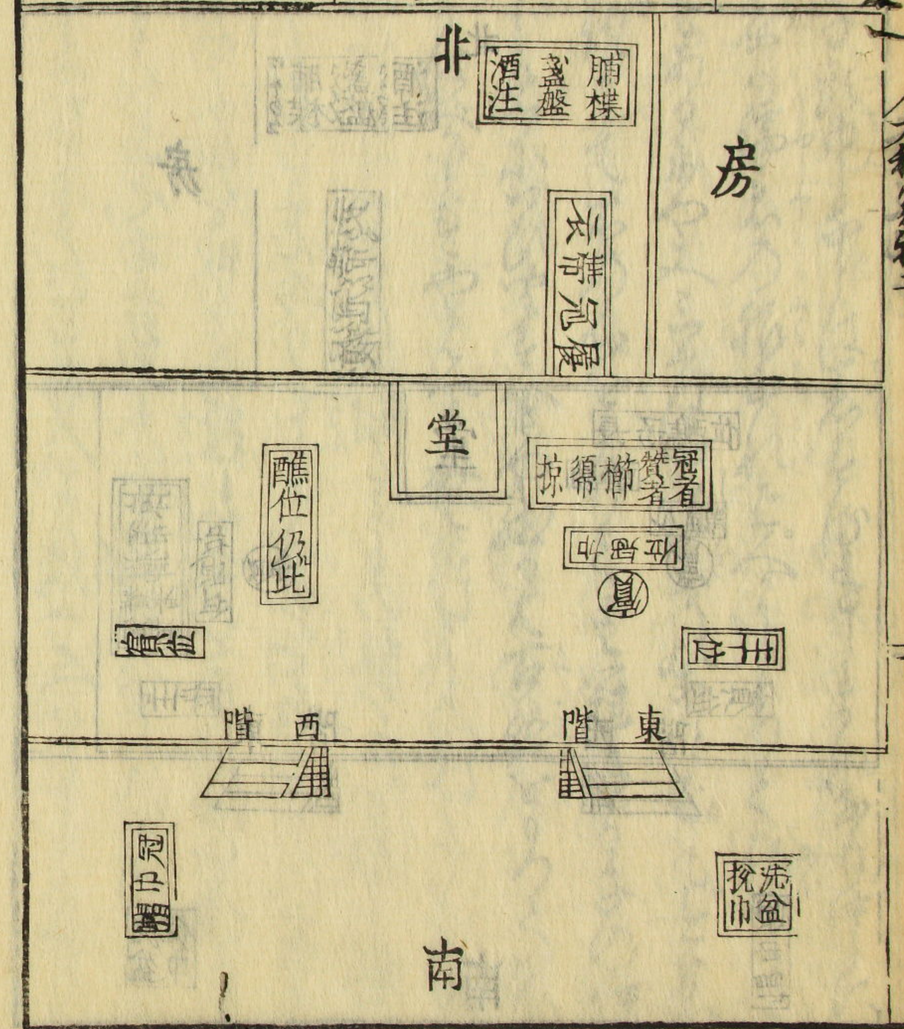
帽子・襪・帛・沓・袴・袍・衣・帶・冠・履・笏・櫛・手・足・爪・髮・鬢・眉・目・口・鼻・耳・頭・項・背・腹・脇・腰・股・膝・脛・踝・骨・肉・血・脈・筋・皮・毛・髓・脳・心・肝・肺・腎・胃・腸・膀胱・大小便・涕・唾・汗・淚・精・氣・息・聲・言・行・坐・立・臥・寢・夢・覺・飲・食・咳・嚏・欠・伸・嚬・笑・泣・怒・喜・樂・憂・愁・思・慮・知・愚・善・惡・美・醜・貴・賤・貧・富・壽・夭・吉・凶・禍・福・榮・辱・生・死・

帽子襪帛沓袴袍衣帶冠履笏櫛手足爪髮鬢眉目口鼻耳頭項背腹脇腰股膝脛踝骨肉血脈筋皮毛髓脳心肝肺腎胃腸膀胱大小便涕唾汗淚精氣息聲言行坐立臥寢夢覺飲食咳嚏欠伸嚬笑泣怒喜樂憂愁思慮知愚善惡美醜貴賤貧富壽夭吉凶禍福榮辱生死

# 長子冠圖



# 衆子冠圖




第九　冠子冠字とつくる事

一元服の礼義とりくゞ冠子字とつくる。

冠字は冠をかゝるとかゝるとの二つ也。

しかるに冠子とつくるは衆子と云ふを。主人おしひて云ふ。

第十　祠堂へ参る事

一主人冠子そのゆゑ祠堂へ参りてゆゑ乃ち

ゆゑとつくる。櫛笥とおして主人

若衆乃ま人よびまつる。若とたゞさこゝろ。

主人は酒をそゝ[illegible]婦に茶をも

りて[illegible]ふ[illegible]て[illegible]神主にひとく茶

子なれば。今日冠とりそめむとて。ものしたまふ。冠をもてまいりたまへり。神うちとぶらはせたまふ。婿君の父君。親しく冠とりたまふ。御ぞ。それ。うつしたまふ。御ぞ。引出物。親王。親王。親王。親王。父君。母君。おとゝ。おとゝ。おとゝ

だんく。約束とりてさし物をそなへくの
入魂をとりもつ。そもく男子の道理をしてとくあり。尼公を
男子の道理のあるよりとりのつれ。大臣
りの女子もいろくの衣服をうりわたす。と
の世をはなれまし。法衣懸やうのごとき女子よ
つぐばかりのあり。女子はわたしてさ衣服とえ
て。そもかのかうりに専用をうべきなり。
第十二 等さんの牛のまま
一等とさんの日ふてさうとして。家とむとて等とさん
あり。女子は等の祝の者をつかまつれ。
うれも男子のごとくに祝言をとりひろうらの



ん物をもひきうをそなへのちの酒をとりつあり。わつ
ひハ名をとりんとて出りくるの也。だ名ふは
女子ふを色宮をとりてまいりまあまた日和ふはなさこ
とも也。さ礼義をかりく。母親がんばりさうを酒
女子をつまて。親子をまいりたひのごとく礼を
して。母者をたきさて祝をまのおよひざ酒づき。
そ祝ゝく行事数目のむとめあふ。今日等
ことをとりひくそ女子をと祝を。礼をさしうこと
そ仮親祝りををこ。さし家元を招者
引物をも出。酒をもりそ礼とりの也。